

朝霞市外部評価委員会（第8回）

次 第

日時 令和元年7月30日（火）
午後3時から
場所 市役所4階 401会議室

1 開 会

2 議 事

（1）外部評価のまとめ

3 その他

4 閉 会

将来像の基本概念（コンセプト）
<h2>安全・安心なまち</h2> <p>“安全・安心なまち”とは、私が「日常生活において安全で安心して暮らしていける」と実感できるまちであるとともに、「災害時においては、みんなで助け合って乗り越えられる」と思えるまちです。</p> <p>日常生活においては、安心して平穏に子どもを育てられたり、老後を過ごせたりすることが必要です。また、誰もが安全に不自由を感じることなく行動でき、不安をかかえずに日々を過ごせることが必要です。</p> <p>また、災害による被害をできるだけ少なくするよう日頃から備えをし、万一、災害が起きても、みんなで助け合って乗り越えていける、そのようなまちにしていきたいと思えます。</p>
政策づくりに当たって重視すべき事項
<p>◆ 1 人にやさしいまちへ</p> <p>1 誰もが歩きやすい歩道の整備や生活道路の安全確保</p> <p>2 ユニバーサルデザインに配慮した公共施設の整備</p>
<p>◆ 2 支え合う心で安全・安心なまちへ</p> <p>1 地震災害時の避難路や緊急輸送路となる幹線道路の整備</p> <p>2 集中豪雨などによる浸水被害の軽減対策</p> <p>3 上下水道などのインフラ、公共施設などの計画的な耐震化・老朽化対策</p> <p>4 防災、減災のための自助、共助、公助による地域防災計画の推進</p> <p>5 市民・地域の主体的な防犯・防災活動や交通安全活動などの支援</p> <p>6 警察や消防などの関係機関、地域の事業者との連携</p> <p>7 社会的弱者といわれる子ども、高齢者、障害のある人、低所得者などが地域で自立した生活を営むために必要な支援</p> <p>8 市民が安心して暮らせるための社会保障制度の適正な運営</p>

外部評価委員会からの所見（案）
<p>◆ 1 人にやさしいまちへ</p> <p>①今後10年で確実に市民の車の保有台数は減る。快適なまちづくりとは、道路から始まるものではないか。行政が「歩けるまち」をどうつくるかを考えてほしい。</p> <p>②自転車を利用する人への交通ルールの啓発を充実させるべきである。</p> <p>③歩行者と自転車、お互いが安心して通行できる道路の整備をすべき。</p> <p>④歩行者が道路を安全に通行するため、道路整備の計画は歩道から取り組むべきである。</p>
<p>◆ 2 支え合う心で安全・安心なまちへ</p> <p>①下水道に関する計画は、非常に時間と費用がかかるものであるため、長期的な視点で進めるとともに、市民への周知も行ってほしい。</p> <p>②防災訓練は地域の実態に合わせて実施してほしい。（誰がどこに避難してくるのかなど）</p> <p>③一人暮らしの高齢者等にかかわる防災の取組を充実させてほしい。</p> <p>④子どもへの犯罪被害を防止するには、保護者や自治会、町内会等の地域の見守りが不可欠であり、そういった人の意識も高めていくべきである。</p> <p>⑤町内会や商店会が市の補助金で設置しているような防犯カメラを、行政が主体となって、必要なところに設置していくべきである。</p> <p>⑥火災への対策は、住民一人一人の意識や取組も重要である。市民への意識啓発や支援も行ってほしい。</p> <p>⑦地域の消防団は、都市圏や都市近郊では人材不足になりやすい。この状況を踏まえて、今後のあり方を考えていくべきである。</p> <p>⑧元気な高齢者への支援、例えば職域の開発といった職業支援などがあってもいいのではないか。</p> <p>⑨市がレスパイトケア補助事業を実施すれば、施設の経営も安定し、より充実したケアを受けることができる。そういった観点から予算化を検討してほしい。また、レスパイトケアの要請があれば柔軟に対応する姿勢をとってほしい。※レスパイトケアは、重症心身障害児者の家族の負担を和らげるため、障害児者を事業所で介護するサービスです。</p>

将来像の基本概念（コンセプト）
<p style="text-align: center;">子育てがしやすいまち</p> <p>“子育てがしやすいまち”とは、私が「このまちで子どもを育て、その喜びを実感できる」まちです。</p> <p>そのためには、子どもたちがのびのびと成長し、学び、遊べる良好な環境が整い、私が安心して楽しく子どもを育てるための様々な支援が充実していることが必要です。</p> <p>さらに、自然や文化に接しながら、子どもたちが心豊かに成長し、質の高い教育を受けられる、そのようなまちにしていきたいと思えます。</p>
政策づくりに当たって重視すべき事項
<p>◆1 子育てしやすいまちへ</p> <p>1 妊娠から出産・子育てと、ライフスタイルに合せた支援体制とサービスの充実</p>
<p>◆2 子どもたちがいきいきと育つまちへ</p> <p>1 全ての子どもが健やかに成長できる地域の環境づくりの推進</p> <p>2 急激な社会の変化に対応するための教職員の資質向上や教育内容の充実</p> <p>3 虐待やいじめ、不登校等の問題を解決するための、子どもの個性と人権を尊重した教育の推進</p> <p>4 障害のある人とない人が共に学ぶことのできる教育制度（インクルーシブ教育システム）を踏まえた、一人一人の障害等に応じた教育の充実</p>

外部評価委員会からの所見（案）
<p>◆1 子育てしやすいまちへ</p> <p>①近隣市では、ボランティアの方が余裕教室を活用して子ども教室を開催しており、朝霞市も遅れを取らず、こうした取組を実施してほしい。</p> <p>②児童館のランドセル来館事業を広く活用できるようにしてほしい。（児童館が通学路にない場合、小学1年生には利用が難しい）</p> <p>③子どもが親の付き添いなく外にいななければいけないことも多くあるため、そういった子どもたちが外で遊ぶことができる取組について検討してほしい。</p>
<p>◆2 子どもたちがいきいきと育つまちへ</p> <p>①市が実施しているサービスの周知について、住民にとって分かりやすいようにSNSなどを活用してほしい。</p> <p>②仕事をしながら母子手帳を平日に取りに行くのは難しいのではないか。体調や健診の予定などに合わせて受け取りやすくなるよう、窓口を開ける時間帯や場所などを工夫してほしい。</p> <p>③読み書きや計算の基礎知識、道徳教育など、本来は家庭生活を通じて身につけるべきことが、最近の学生には欠けていると感じられることから、今後は、家庭に対する教育を地域行政が担うべきである。</p> <p>④貧困家庭や外国人住民などに対する学習支援や、学習支援を行うボランティアのサポートについて、具体的な取組が分かるようにしてほしい。</p>

将来像の基本概念（コンセプト）
<p style="text-align: center;">つながりのある元気なまち</p> <p>“つながりのある元気なまち”とは、私が「いきいきと暮らし、様々な人々と絆（きずな）を結び、自分らしい人生を送れている」と実感できるまちです。</p> <p>そのためには、個人の価値観やライフスタイル、異なる文化的背景をお互いに尊重し合いながら、地域に住む人々が連帯し、私たちの誰もが住みやすいまちにしていくことが必要です。</p> <p>また、近くのにぎわいのある商店街があるなど、各施設がまちのなかにバランス良く存在していれば、地域で働く機会も増え、より活気のあるまちになるはずで、そのような元気なまちにしていきたいと思えます。</p>
政策づくりに当たって重視すべき事項
<p>◆1 つながりのあるまちへ</p> <p>1 自治会やボランティアなどコミュニティ活動の活性化と連携の促進による住民の地域意識の醸成</p> <p>2 生涯学習に対する市民の関心の高まりに対するスポーツや芸術文化などの活動支援及び学び合いによるまちづくりの推進</p> <p>3 NPOなど市民活動団体への支援</p> <p>4 多文化共生の考えのもと、お互いを理解しあうためのコミュニケーションの促進</p> <p>5 コミュニティバス運行や路線バスとの連携による公共交通ネットワークの充実</p>
<p>◆2 元気なまちへ</p> <p>1 高齢者の豊富な知識や経験の活用、学習活動・就業への支援</p> <p>2 いつまでも、住み慣れた地域で暮らし続けるための福祉サービスの質の向上</p> <p>3 健康づくりの取組の充実</p> <p>4 消費者ニーズに対応できる商業の振興、商店街の活性化</p> <p>5 起業家や中小企業への効果的な支援</p> <p>6 雇用機会の創出と労働環境の充実の支援</p>

外部評価委員会からの所見(案)
<p>◆1 つながりのあるまちへ</p> <p>①定期的に担当者がまちへ出向いて、各地区の住民と話をするなど、自治会等の運営や活動状況を積極的に状況把握をしてほしい。</p> <p>②彩夏祭でできるコミュニティなどを参考にして、自治会活動を活性化できないか。</p> <p>③公民館、図書館、博物館、市民会館、市民センター等の相互連携を図り、コミュニティ活動をより促進してもらいたい。</p> <p>④市民センターの利用率低下の原因と、解決のために何をしたのかを分かるようにしてほしい。</p> <p>⑤文化創造を主旨とした劇場法や、ソーシャルインクルージョンの実現を踏まえ、市民会館などをどう運営していくか検討するべきである。市民会館は劇場法を所管する教育委員会の所管にするべきではないか。</p> <p>⑥朝霞市の博物館は文化的価値の高い施設であるため、もっと活用するべきである。また、従来の方法にとられない活用のしかたをしてほしい。</p> <p>⑦高齢者は運転免許を返納すると交通手段がなくなる。バスの利便性を向上させるなど、対策を検討してほしい。</p> <p>⑧デマンド交通など、先進的な取組を行っている近隣市の状況などを調査し、活用してほしい。</p>
<p>◆2 元気なまちへ</p> <p>①見学を受け入れる事業所のマップを作り、企業と地域とのつながりを積極的に促進してほしい。（産業観光ツーリズム）</p> <p>②事業者支援、企業誘致について、計画に位置付けるだけでなく、最重要課題として具体的に進めてほしい。</p>

将来像の基本概念（コンセプト）
<p style="text-align: center;">自然・環境に恵まれたまち</p> <p>“自然・環境に恵まれたまち”とは、私が「四季折々の草花、動物たち、川や湧水などの自然が豊かだ」、「まちの歴史や文化伝統を大切に次の世代に手渡していける」と実感できるまちです。</p> <p>そのためには、豊かな自然や環境を守り、育て、さらに魅力を引き出していくことが何よりも大切です。</p> <p>まちの自然・環境のすばらしさを、誰もが自信を持って語り合い、歴史や文化伝統を誇れるようなまちを創り出したいと思います。</p>
政策づくりに当たって重視すべき事項
◆1 自然・環境がいきるまちへ
1 自然と調和した適正な土地利用の促進
2 市民との協働による河川環境や樹林地、湧水、公園緑地などの保全・活用
3 地域の特色をいかした美しい景観の保全・創出
4 環境保全のための活動の支援、環境にやさしいまちづくり
5 循環型社会の構築に向けた市民と行政が一体となった取組の推進
◆2 歴史や伝統がいきるまち、魅力ある文化を創造するまちへ
1 朝霞のあゆみを後世に伝えていくための地域の歴史や伝統文化の継承・保護
2 恵まれた自然や環境を生かした朝霞独自の文化の継承・創出・育成
3 まちの活性化を図るため、市と市民の協力によるまちの魅力（文化・環境・ひと）の発信

外部評価委員会からの所見（案）
◆1 自然・環境がいきるまちへ
<p>①基地跡地公園の整備は、市民の声を聴きながら進めていってほしい。</p> <p>②シンボルロードの広場をどのように活用していくのか、市民が具体的にイメージできるよう、事業を進めていけばもっと盛り上がるのではないかな。</p> <p>③黒目川の桜のライトアップを工夫して、東上線からみる人にもアピールしたほうがいい。</p> <p>④公園がないエリアについて、引き続き公園の整備を検討し、実現させてほしい。</p> <p>⑤川が地域にもたらす文化性を考え、識者の意見を聞きながら整備等に取り組んでほしい。</p> <p>⑥黒目川の遊歩道は、自転車で走行する人や夜に散歩する人など誰もが通行しやすいよう、整備を進めてほしい。</p> <p>⑦ツツジは市の花として適切に保全・評価されているのか疑問である。旬の季節に人々が訪れてツツジを楽しめるよう、群生させるなど、積極的にアピールしていく施策も検討してほしい。</p> <p>⑧リサイクルプラザが実施している食品・制服などのリサイクルの取組は、市民にもっと知られるようにしてほしい。</p>
◆2 歴史や伝統がいきるまち、魅力ある文化を創造するまちへ
<p>①博物館に、朝霞の歴史・経歴が一目で分かるようなもの（動画など）があってもいいのではないかな。知恵をしぼってイベントを企画してほしい。</p> <p>②夏休みに小学生向けに実施している体験教室から、博物館に興味を持つ子どももいると思うので、今後も積極的に実施してほしい。</p> <p>③シティ・セールス朝霞ブランドについて、活用するアイデアを併せ、もっとPRしてほしい。</p> <p>④本田美奈子・モニュメントを認定するのであれば、モニュメントなどのスポットをめぐるような交通整備・取組がほしい。</p> <p>⑤オリンピック・パラリンピックを契機として、外国人によるガイドやおもてなしに関する取組を展開できないか。</p> <p>⑥市外に住む方や、新しく市内に住む方が、「むさしのフロントあさか」を認識する機会を増やすべきである。</p> <p>⑦シティ・プロモーションのウェブサイト動きがあまり見られない。もっと活用してほしい。</p> <p>⑧シティ・プロモーションについて、もっと具体的な取組が市民の理解を深める意味でもアピールが必要である。また、カタカナでの説明が多いため、日本語での補足が必要である。</p>

私が 暮らしたいまち 朝霞

朝霞のまちには、子どもからお年寄りまで、たくさんの方が暮らしています。このまちに住んでいる人、学んでいる人、働いている人、活動している人など、

「朝霞に関わりのある一人一人が主人公である」との意味を込めて、将来像の主語を“私”としています。

“私”が、朝霞というまちを愛し、「朝霞に暮らしたい」、「朝霞で暮らしてみたい」と思えるような、魅力的で住みやすいまちにしていきたいと思います。

将来像の基本概念（コンセプト）

「私が暮らしたい」と思えるまちであるために、日々の安全・安心や、人々のつながり、元気やうるおい・やすらぎなどは、誰にとっても欠かせません。また、将来にわたって暮らしたいために、未来を担う子どもを育てやすいことや、私たちが暮らす環境が守られていることなども大切です。

このようなことから、具体的にどのようなまちであれば、「私が暮らしたい」と思えるのか、「私たちのまちはこうありたい」、「こうあってほしい」という想いを、「安全・安心なまち」、「子育てがしやすいまち」、「つながりのある元気なまち」、「自然・環境に恵まれたまち」という4つの基本概念（コンセプト）としてまとめました。

この4つの基本概念（コンセプト）を私たちと行政が共有し、みんなで同じ方向を向いて力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。

外部評価委員会からの所見（案）

◆ 基本構想を推進するために（市民参画・協働）

- ①地域人材の発掘については、地域で活躍している方がどのような活動をしているか調査し、発掘・活躍していただけるような仕組みができるとよい。
- ②附属機関の委員のうち公募委員が占める割合について、指標を掲げている割には少ないように感じる。また、女性委員の割合が増えるような対応を取ってほしい。
- ③実際に公募委員をやってみて、もっと続けたいという意欲が湧いた。朝霞市のことをより知ることができ、市民として発信していきたいと思った。また、知らなかった多くの施策を知り、市からもっと発信してほしいと感じた。
- ④市公式ツイッターなどのSNSは、情報を発信するだけでなく、市民が情報に対して感想を伝えたり、問題を指摘したりするツールとしても活用すべきである。

◆ 基本構想を推進するために（行財政）

- ①税の使い道について、「市民の目線」での表現を大切にして、広報を行ってほしい。
- ②税金・保険料等の納付における口座振替利用のお知らせなどをはじめ、今後も税金等を納めやすく、未納にならないような、丁寧できめ細やかな取組を続けてほしい。
- ③指定管理者制度の導入により、民間のノウハウを活用し、経費を削減できるとのことだが、朝霞市の文化施設で民間のノウハウが発揮されるように工夫してほしい。
- ④直営にしても指定管理にしても、市の文化施設は文化政策が発揮される施設であってほしい。
- ⑤ICTの活用について、民間の実情を踏まえ、市民とのフェイス to フェイスのやり取りを深めるためにも、職員の意識改革を含め、問題意識を持って本格的に取り組んでほしい。